

# 図書館部報

岡崎市現職研修委員会  
学校図書館部  
平成22年12月6日  
No.4

## 絵本「いのちのまつり」

現職研修委員会学校図書館部部长  
大門小学校 塩澤 順治

SMAPの木村拓哉さんの母、木村まさ子さんの講演を聞く機会を得た。

「うちの子に“いただきます”を言わせないでください」と学校側に申し出る母親がいると聞いて、耳を疑いました。給食費を払っているのだから、当然の権利というわけです。また、“いただきます”と言って手を合わせる行為は、宗教行為であるからやめてほしいという抗議もあって、ある教育委員会では「笛を吹いて食べ始める」指導をしているそうです。ですが、『いただきます』や『ごちそうさま』には、料理を作ってくれた人への感謝と、同時に死んでいった生き物に対する慰霊の意味もあると思います。…

あのスーパースター木村拓哉さんのお母さんということで、「どんな人だろう」「どんな話をするのだろう」と興味をもっていた。主な講演内容は、食にまつわる話、子育ての話、自分がしんどかったときの話。特に、一人で暮らすようになって食に対して感じたことや心がけてきたことなどについて語られた。参加者の中には、子育ての苦労話に共感されたのか、涙ぐむ女性の方もみえた。

また、講演の後半で、絵本「いのちのまつり」を紹介された。沖縄の話で、絵本のイラストも色もきれいな本である。

島のオバアがコウちゃんにたずねます。

「ぼうやにいのちをくれた人は誰ね～？」

「それは…お父さんとお母さん？」

「そうだねえ。いのちをくれた人をご先祖さまと言うんだよ」

「ねえ、おばあちゃん、ぼくのご先祖さまって何人いるの？」

コウちゃんは、指をおって数えてみることにしました。

すると…

「ぼくにいのちをくれた人、2人」

「お父さんとお母さんにいのちをくれた人、4人」

「おじいちゃんとおばあちゃんにいのちをくれた人、8人」

そして、16人、32人と増えていき、ついには数えられない数に。宇宙の始まりからいのちが続いていること、ご先祖さまが誰一人欠けても生まれてこなかったこと、いのちのすごさを教えてくれる絵本である。

全体を通して、とても興味深い講演であった。



# 岡崎市教育研究大会優秀レポート

本年度の県教育研究大会は、台風のため中止となりました。そこで、県で発表される予定だったレポートの概要を紹介します。



## 研究テーマ「愛の心を描いた物語を読み、感じたことを伝え合おう

### —第4学年「世界一美しいぼくの村」の実践—

#### ①目指す子ども像

- ・読みを深める子・・・「愛の心」が描かれた本を読んで、その本に書かれている「愛の心」を意識し、その愛に迫る感想をもてる子
- ・仲間とともに読む読書の楽しさを実感できる子・・・友達の読みの良さが分かり、自分の読みと比べることで、1冊の本を深く味わい、本を読むことの楽しさをより味わうことができる子

#### ②実践

ア、物語文「世界一美しいぼくの村」を読み取り、描かれている愛の心を考え、最後の一文について考える。  
イ、「愛の心」をテーマにした本を読む。

ウ、グループごとに読書会を開き、「愛の心」をテーマに感想や考えを伝え合う。

- ・自分の読んだ本の中から一番心に残った本を選び、同じ本を選んだ子同士でグループを作る。
- ・自分の感じたことを出し合い、話し合うテーマを決める。テーマに対する自分の考えをはっきりさせる。
- ・グループで話し合い、グループの話し合いは司会者がまとめて発表する。

#### ③成果と課題

グループで読書会を行い、同じ本をみんなで読み合うことにより、いろいろな感じ方に触れ、読書への興味がより一層高まった。今後は、個人の読み取りの力を高められるよう指導していきたい。【竜美丘小 坂部】

## 研究テーマ 知る喜びを感じ、情報を活用する力を育む図書館教育をめざして

### —1年国語科「発見の驚きや知る喜びを伝える・聞く・学び合う

### ～『クジラたちの声』（中島将行、中1・光村図書）の実践を中心に—

#### ①テーマ設定の理由

生徒の読書活動をより活発にするとともに、本で得た新しい知識や情報を積極的に活用し役立てていく力を養うための授業実践に取り組んだ。

#### ②実践のポイント

- ・円滑な情報整理を促し、効果的な学びを手助けする学習シートの開発とモデル学習
- ・生徒一人一人が適切な本を選べるよう支援したり、学習に関わる本がいつでも教室で手に取れるようにしたりするなど、学びと読書のための環境づくり
- ・授業で学んだことを活用して行う発展的学習〈動物の生態をテーマにした一人調べと説明文作り〉とその学習をさらに深める交流・学び合い学習

#### ③成果と課題

普段はあまり触れることの少ない自然科学の本を手にとり、生徒たちは読書から知識を得られることを学んだ。しかし、自分に必要な情報を的確に選択し、それを生活の中に生かしていくには、時間と経験が必要であるようにも思う。情報を活用する力とは、一朝一夕には成し得ることのできない力である。ゆえに、中学校3年間を通しての計画的な実践を行っていく必要がある。【河合中 内藤】